



## 共通ポリシー

---

- [AddContactProtocolRateLimit](#) (4 ページ)
- [AddContactProtocolTimeLimit](#) (4 ページ)
- [AlertOnAvailableEnabled](#) (4 ページ)
- [BlockAccessoriesManagerPlugins](#) (4 ページ)
- [BlockVersionBelow](#) (5 ページ)
- [CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled](#) (5 ページ)
- [CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema](#) (5 ページ)
- [ClickToCallProtocolPermissionEnabled](#) (6 ページ)
- [ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled](#) (6 ページ)
- [CommonCriteriaEndCallTimeout](#) (6 ページ)
- [CTIWindowBehaviour](#) (7 ページ)
- [DeskPhoneModeWindowBehavior](#) (7 ページ)
- [DetailedLogDurationDesktop](#) (7 ページ)
- [DetailedLogDurationMobile](#) (8 ページ)
- [DiagnosticsToolEnabled](#) (8 ページ)
- [Disable\\_MultiDevice\\_Message](#) (8 ページ)
- [DisableVoicemailSentBox](#) (9 ページ)
- [Disallow\\_File\\_Transfer\\_On\\_Mobile](#) (9 ページ)
- [EnableAccessoriesManager](#) (9 ページ)
- [EnableADLockPrevention](#) (10 ページ)
- [EnableBFCPVideoDesktopShare](#) (10 ページ)
- [EnableCallPickup](#) (11 ページ)
- [EnableCiscoChatProtocol](#) (11 ページ)
- [EnableCiscoIMGroupProtocol](#) (11 ページ)
- [EnableCiscoIMProtocol](#) (11 ページ)
- [EnableCiscoTelConfProtocol](#) (12 ページ)
- [EnableCiscoTelProtocol](#) (12 ページ)
- [EnableClickToCallProtocol](#) (12 ページ)
- [EnableDualConnections](#) (13 ページ)

- [EnableForensicsContactData](#) (13 ページ)
- [EnableGroupCallPickup](#) (13 ページ)
- [EnableHuntGroup](#) (13 ページ)
- [EnableIMProtocol](#) (14 ページ)
- [EnableLocalAddressBookSearch](#) (14 ページ)
- [EnableLotusNotesCLibrarySupport](#) (14 ページ)
- [EnableLotusNotesContactResolution](#) (15 ページ)
- [EnableMediaStatistics](#) (15 ページ)
- [EnableOtherGroupPickup](#) (16 ページ)
- [EnableP2PDesktopShare](#) (16 ページ)
- [EnableProfileProtocol](#) (16 ページ)
- [EnablePromoteMobile](#) (16 ページ)
- [EnableProvisionProtocol](#) (17 ページ)
- [\[RecordingTone の有効化 \(EnableRecordingTone\)\]](#) (17 ページ)
- [EnableSaveChatToFile](#) (18 ページ)
- [EnableShareProtocol](#) (18 ページ)
- [EnablesSendLogsViaEmail](#) (19 ページ)
- [EnableSIPProtocol](#) (19 ページ)
- [EnableSIPURIDialling](#) (19 ページ)
- [EnableStatusProtocol](#) (20 ページ)
- [EnableTelephonyProtocolRateLimit](#) (20 ページ)
- [EnableTelProtocol](#) (20 ページ)
- [EnableTelProtocolPopupWindow / CiscoTelProtocolPermissionEnabled](#) (21 ページ)
- [EnableVideo](#) (21 ページ)
- [EnableVoicePush](#) (21 ページ)
- [EnableXMPPProtocol](#) (22 ページ)
- [FCM\\_Push\\_Notification\\_Enabled](#) (22 ページ)
- [ForceC2XDirectoryResolution](#) (22 ページ)
- [ForceDevicePin](#) (23 ページ)
- [ForceFontSmoothing](#) (23 ページ)
- [ForceUpgradingOnMobile](#) (23 ページ)
- [Inactive\\_Connection\\_Activation\\_Timer](#) (24 ページ)
- [InitialPhoneSelection](#) (24 ページ)
- [InstantMessageLabels](#) (24 ページ)
- [InvalidCredentialsLogout](#) (25 ページ)
- [LegacyOAuthLogout](#) (25 ページ)
- [LocalRecordingToneVolume](#) (26 ページ)
- [LogWritingDesktop](#) (26 ページ)
- [LogWritingMobile](#) (27 ページ)
- [MaxNumberOfFilesDesktop](#) (27 ページ)
- [MaxNumberOfFilesMobile](#) (27 ページ)

- Meetings\_Enabled (28 ページ)
- MuteAudioByDefault (28 ページ)
- NearEndRecordingToneVolume (28 ページ)
- Prefer\_BIB\_Recorder (28 ページ)
- PresenceProtocolRateLimit (29 ページ)
- PresenceProtocolTimeLimit (29 ページ)
- PreventDeclineOnHuntCall (29 ページ)
- PrintIMEnabled (30 ページ)
- ProfileProtocolRateLimit (30 ページ)
- ProfileProtocolTimeLimit (30 ページ)
- ProvisionProtocolRateLimit (30 ページ)
- ProvisionProtocolTimeLimit (31 ページ)
- Push\_Notification\_Enabled (31 ページ)
- Recent\_Chats\_Enabled (31 ページ)
- RecordingToneInterval (31 ページ)
- RememberChatList (32 ページ)
- RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices (32 ページ)
- RemotePRTServer (32 ページ)
- SaveLogToLocal (33 ページ)
- ScreenShareAuditMessages (33 ページ)
- selfcareURL (33 ページ)
- SelfMuteTone (34 ページ)
- ServiceDiscoveryExcludedServices (34 ページ)
- ServicesDomainSsoEmailPrompt (34 ページ)
- SharePortRangeSize (35 ページ)
- SharePortRangeStart (35 ページ)
- ShareProtocolRateLimit (36 ページ)
- ShareProtocolTimeLimit (36 ページ)
- ShowSelfCarePortal (36 ページ)
- SoftPhoneModeWindowBehavior (36 ページ)
- TelemetryCustomerID (37 ページ)
- TelemetryEnabled (37 ページ)
- TelemetryEnabledOverCellularData (37 ページ)
- Telephony\_Enabled (38 ページ)
- TelephonyProtocolRateLimit (38 ページ)
- TelephonyProtocolTimeLimit (38 ページ)
- UserDefinedRemoteDestinations (39 ページ)
- UserEnabledDetailedLogging (39 ページ)
- Voicemail\_Enabled (39 ページ)
- VoiceServicesDomain (40 ページ)
- WhitelistBot (40 ページ)

## AddContactProtocolRateLimit

Synergy デバイス上の Cisco Jabber for Android に適用されます。

URLを持つ連絡先を連絡先リストに追加した後、ユーザーがクロス起動できる回数を指定します。Add Contact スキームを使用して、URL (contact=username@cisco.com など) を持つユーザーの連絡先リストに連絡先を追加できます。たとえば、AddContactProtocolRateLimit が 3 で、AddContactProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザーは Cisco Jabber で Add Contact スキームを 15 秒ごとに 3 回相互起動できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : <AddContactProtocolRateLimit>10</AddContactProtocolRateLimit>

## AddContactProtocolTimeLimit

Synergy デバイス上の Cisco Jabber for Android に適用されます。

URLを持つ連絡先を連絡先リストに追加した後、ユーザーが相互起動できる時間を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例 : <AddContactProtocolTimeLimit>10</AddContactProtocolTimeLimit>

## AlertOnAvailableEnabled

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザがアベイラビリティ ウォッチ リストに連絡先を追加できるようにします。

- true (デフォルト) : ユーザーはアベイラビリティ ウォッチリストに連絡先を追加できます。
- false : ユーザーはアベイラビリティ ウォッチリストに連絡先を追加できません。

例 : <AlertOnAvailableEnabled>>false</AlertOnAvailableEnabled>

## BlockAccessoriesManagerPlugins

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabra や Logitech などのサードパーティ ベンダーからの特定のアクセサリ マネージャ プラグインを無効にします。プラグイン DLL ファイルの名前は、値として設定する必要があります。複数の値はカンマで区切ります。

Microsoft Windows での例 :

```
<BlockAccessoriesManagerPlugins> JabraJabberPlugin.dll,lucpcisco.dll
</BlockAccessoriesManagerPlugins>
```

## BlockVersionBelow

すべてのクライアントに適用されます。

管理者は、ユーザーがサインインできるクライアントの 12.9(0) 以降の最も古いリリースを指定できます。このパラメータを設定すると、リリース 12.9 以降の Jabber クライアントは、指定されたリリースより前のリリースのユーザーにサインアウトを強制します。その後、クライアントをアップグレードするための指示がクライアントに表示されます。



**重要** リリース 12.9 以降の Jabber クライアントのみがこのパラメータを認識します。たとえば、リリース 12.8(1) クライアントが jabber-config.xml でこのパラメータを読み取っても、クライアントはそれを無視します。したがって、このパラメータは、ユーザーがリリース 12.9 以降のクライアントをインストールした後にのみ有効になります。

UpdateUrl パラメータを使用して、Unified Communications Manager TFTP サーバで Jabber を自動更新する場合、Jabber は BlockVersionBelow を無視します。

例：

```
<BlockVersionBelow>12.9.1</BlockVersionBelow>
```

ForceUpgradingOnMobile を使用して、Android ユーザーに最新バージョンへのアップグレードを強制することもできます。BlockVersionBelow は、ユーザーがデバイスで自動アップグレードを無効にできる BYOD 展開で有用です。

## CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

通話が終了したときに別のアプリケーションに戻るか、Jabber にとどまるかをユーザーに尋ねるダイアログボックスを表示するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : ダイアログボックスが表示されます。
- false : ダイアログボックスは表示されません。

例：

```
<CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled>>false</CiscoTelProtocolCrossLaunchBackNotificationEnabled>
```

## CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーは、元のアプリに戻るために使用される URL でパラメータを指定できます。

CrossLaunchBackSchema は、クロス起動で戻ることのできる許可されたアプリスキーマのホワイトリストです。各スキーマで追加のパラメータを指定して、追加のパラメータを使用してア

プリをクロス起動できるようにすることができます。起動して戻るスキーマに特定のパラメータを設定できます。たとえば、http の場合、Web サイト「www.cisco.com」を設定できます。スキーマと追加のパラメータを指定した後、セミコロンを使用して、追加のスキーマを指定します。

- none (デフォルト) : リストなし。
- *schema\_names* : 許可されたアプリケーションタイプをセミコロンで区切ったリスト。

例 : <CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema>AppSchema1://parameter1;  
AppSchema2</CiscoTelProtocolCrossLaunchBackSchema>

## ClickToCallProtocolPermissionEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスでは、ユーザーが `clicktocall: uri` リンクをクリックした後に、Cisco Jabber を使用して発信するかどうかを確認するための情報が提供されます。

- true (デフォルト) : ダイアログボックスが有効になり、ユーザーは Cisco Jabber を使用して発信することを確認するよう求められます。
- false : ダイアログボックスが無効になり、確認を要求されずにコールが発信されます。

例 : <ClickToCallProtocolPermissionEnabled>>false</ClickToCallProtocolPermissionEnabled>

## ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ダイアログボックスを有効にするか無効にするかを指定します。このダイアログボックスでは、ユーザーが `clicktocall: uri` リンクをクリックした後に、Cisco Jabber を使用して [編集して発信 (Call with edit) ] オプションで発信するかどうかを確認するための情報がユーザーに提供されます。

- true (デフォルト) : ダイアログボックスが有効になり、ユーザーは Cisco Jabber を使用して編集して発信オプションで発信することを確認するよう求められます。
- false : ダイアログボックスが無効になり、確認を要求されずにコールが発信されます。

例 :

<ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled>>false</ClickToCallWithEditProtocolPermissionEnabled>

## CommonCriteriaEndCallTimeout

Windows 版、iPhone および iPad 版、Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

CC\_MODE インストール引数または EMM パラメータを展開することにより、すでに Jabber をコモンクライテリア モードで実行している必要があります。CC\_MODE をデプロイすると、CommonCriteriaEndCallTimeout パラメータが自動的に有効になります。これにより、アクティブな通話中に、ユーザーが相手からメディアデータを特定の期間受信しなかった場合、通話は自動的に終了します。デフォルト値の 300 秒を変更できます。

例 : <CommonCriteriaEndCallTimeout>60</CommonCriteriaEndCallTimeout>

## CTIWindowBehaviour

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがデスクフォン制御モード (CTI モード) でコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- OnCall (デフォルト) : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation) ] ウィンドウが表示されます。
- Never : コールへの応答時に [会話 (Conversation) ] ウィンドウは表示されません。

以前のバージョンの Cisco Jabber for Windows でこのパラメータを設定した場合、このリリースでも引き続き使用できます。ただし、代わりに DeskPhoneModeWindowBehavior パラメータを使用することをお勧めします。

例 : <CTIWindowBehaviour>Never</CTIWindowBehaviour>

## DeskPhoneModeWindowBehavior

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがデスクフォン制御モード (CTI モード) でコールに応答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- OnVideo : [会話 (Conversation) ] ウィンドウはビデオコールに対してのみ表示されます。
- OnCall (デフォルト) : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation) ] ウィンドウが表示されます。
- Never : コールへの応答時に [会話 (Conversation) ] ウィンドウは表示されません。

例 : <DeskPhoneModeWindowBehavior>Never</DeskPhoneModeWindowBehavior>

## DetailedLogDurationDesktop

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

LogWritingDesktop パラメータに値 UserCanEnable を構成する場合、このパラメータは、デスクトップクライアントがディスクにログを書き込む時間数を定義します。定義された期間が経過すると、すべてのログがディスクから消去されます。

このパラメータの値を指定しない場合（デフォルト）、クライアントはログを無期限に、またはユーザーが詳細ログを無効にするまでディスクに書き込みます。

例：<DetailedLogDurationDesktop>10</DetailedLogDurationDesktop>

## DetailedLogDurationMobile

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

LogWritingMobile パラメータに値 UserCanEnable を構成する場合、このパラメータは、モバイルクライアントがディスクにログを書き込む時間数を定義します。定義された期間が経過すると、すべてのログがディスクから消去されます。

このパラメータの値を指定しない場合（デフォルト）、クライアントはログを無期限に、またはユーザーが詳細ログを無効にするまでディスクに書き込みます。

例：<DetailedLogDurationMobile>10</DetailedLogDurationMobile>

## DiagnosticsToolEnabled

Windows 版 Jabber に適用されます。

12.8 (2) 以前の Windows 版 Jabber リリースでは、Jabber 診断ツールを無効にできるのは、DIAGNOSTICSTOOLENABLED インストール引数が false に設定されたクライアントをインストールすることによってのみです。

リリース 12.8(2) では、jabber-config.xml のツールを無効にするための DiagnosticsToolEnabled パラメータが追加されています。

- true（デフォルト）：ユーザーは Ctrl+Shift+D を押すことで Jabber 診断ツールを表示できます。
- false：ユーザーは Jabber 診断ツールを使用できません。

例：<DiagnosticsToolEnabled>>false</DiagnosticsToolEnabled>

## Disable\_MultiDevice\_Message

クラウドおよびオンプレミス展開のすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

複数デバイスのメッセージング機能を無効にします。

- true：複数デバイスのメッセージング機能を無効にします。



- **false** (デフォルト) : 複数デバイスのメッセージング機能が有効になっています。ユーザーは、サインインしているすべてのデバイスで送受信されたすべてのメッセージを表示できます。



(注) 複数デバイスのメッセージングは、ファイル転送またはスクリーンキャプチャをサポートしていません。ファイルは、そのファイルを送信または受信したアクティブなデバイスでのみ使用できます。

例 :

```
<Disable_MultiDevice_Message>true</Disable_MultiDevice_Message>
```

## DisableVoicemailSentBox

すべてのクライアントに適用されます

リリース 12.8 では、送信済みボイスメールを表示するためのオプションがユーザー向けに追加されました。クライアントは、サーバに定期的に要求して、[送信済み (Sent)] ボックスを更新します。この追加のトラフィックを削除するには、新しい **DisableVoicemailSentBox** パラメータを使用して、[送信済み (Sent)] ボックスを無効にします。

- **true** : [送信済み (Sent)] ボックスを無効にします。
- **false** (デフォルト) : [送信済み (Sent)] ボックスを無効にしません。

例 : 

```
<DisableVoicemailSentBox>true</DisableVoicemailSentBox>
```

## Disallow\_File\_Transfer\_On\_Mobile

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがモバイル上でファイルを送受信できるかどうかを指定します。

- **true** : ユーザーはモバイル上でファイルを送受信できません。
- **false** (デフォルト) : ユーザーはモバイル上でファイルを送受信できます。

例 : 

```
<Disallow_File_Transfer_On_Mobile>true</Disallow_File_Transfer_On_Mobile>
```

## EnableAccessoriesManager

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントでアクセサリ API を有効にします。この API を使用して、アクセサリのベンダーはヘッドセットなどのデバイスでコール管理機能を有効にするプラグインを作成できます。

- true (デフォルト) : アクセサリ API を有効にします。
- false : アクセサリ API を無効にします。



(注) false に設定すると、一部のヘッドセットのコール制御ボタンが機能しません。

例 : `<EnableAccessoriesManager>>false</EnableAccessoriesManager>`

## EnableADLockPrevention

すべてのクライアントに適用されます

管理者は、サインイン試行の失敗の最大数に対して Active Directory サーバーを構成できます。この設定により、一部の Jabber 展開で誤ったアカウントロックアウトが発生する可能性があります。たとえば、SSO 認証のない展開では、すべての Jabber サービスが同じ不正なログイン情報を AD サーバーに送信し、失敗カウンターを急速に引き上げる可能性があります。

この問題が発生した場合は、EnableADLockPrevention を使用して、サービスが同じ不正なログイン情報を AD サーバーに送信しないようにすることができます。使用できる値は次のとおりです。

- true : 1つのサービスが無効なログイン情報エラーを受け取った後、Jabber は同じログイン情報を持つすべてのサービスを停止します。
- false (デフォルト) : Jabber は無効なログイン情報エラーを無視し、サインインの試行を続行します。

例 : `<EnableADLockPrevention>>true</EnableADLockPrevention>`

## EnableBFCPVideoDesktopShare

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

BFCP ビデオデスクトップ共有機能を有効にします。詳細については、『Cisco Jabber プランニングガイド』の「画面共有」の章を参照してください。

- true (デフォルト) : クライアント上の BFCP ビデオデスクトップ共有を有効にします。
- false : BFCP ビデオデスクトップ共有を無効にします。

例 : `<EnableBFCPVideoDesktopShare>>false</EnableBFCPVideoDesktopShare>`

## EnableCallPickup

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが自分のコール ピック アップ グループ内のコールをピックアップできるかどうか指定します。

- **true** : コールピックアップを有効にします。
- **false** (デフォルト) : コールピックアップを無効にします。

例 : `<EnableCallPickup>true</EnableCallPickup>`

## EnableCiscoChatProtocol

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `ciscochat: protocol` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : クライアントは、`ciscochat: protocol` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- **false** : クライアントは、`ciscochat: protocol` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoChatProtocol>>false</EnableCiscoChatProtocol>`

## EnableCiscoIMGroupProtocol

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `ciscoimgroup: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : クライアントは `ciscoimgroup: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- **false** : クライアントは、`ciscoimgroup: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoIMGroupProtocol>>false</EnableCiscoIMGroupProtocol>`

## EnableCiscoIMProtocol

Android 版、iPhone および iPad 版、Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `ciscoim: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscoim: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは、`ciscoim: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoIMProtocol>>false</EnableCiscoIMProtocol>`

## EnableCiscoTelConfProtocol

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `ciscotelconf: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscotelconf: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは、`ciscotelconf: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoTelConfProtocol>>false</EnableCiscoTelConfProtocol>`

## EnableCiscoTelProtocol

Android 版、iPhone および iPad 版、Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `ciscotel: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `ciscotel: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは、`ciscotel: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableCiscoTelProtocol>>false</EnableCiscoTelProtocol>`

## EnableClickToCallProtocol

Android 版、iPhone および iPad 版、Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `clicktocall: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは `clicktocall: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは `clicktocall: URI` のプロトコルハンドラとして登録しません。

例 : `<EnableClickToCallProtocol>>false</EnableClickToCallProtocol>`

## EnableDualConnections

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントがプライマリノードへのアクティブな接続とバックアップノードへの非アクティブな接続を確立できるようにします。

- **true** : デュアル接続を有効にします。
- **false** (デフォルト) : デュアル接続は無効です。

例 : `<EnableDualConnections>True</EnableDualConnections>`

## EnableForensicsContactData

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

連絡先に関連する問題を報告する際、ユーザーの連絡先フォルダが Problem Reporting Tool (PRT) によって収集されるかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : 連絡先フォルダが PRT ツールによって収集されます。
- **false** : 連絡先フォルダは RRT によって収集されません。

例 : `<EnableForensicsContactData>>false</EnableForensicsContactData>`

## EnableGroupCallPickup

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

コールピックアップグループ番号を入力して、ユーザが別のコールピックアップグループの着信コールをピックアップできるかどうか指定します。

- **true** : グループ コール ピックアップを有効にします。
- **false** (デフォルト) : グループ コール ピックアップを無効にします。

例 : `<EnableGroupCallPickup>>true</EnableGroupCallPickup>`

## EnableHuntGroup

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザがハントグループにログインできるかどうか指定します。

- **true** : ユーザーはハントグループにログインできます。

- false (デフォルト) : ユーザーはハントグループにログインできません。

例 : `<EnableHuntGroup>true</EnableHuntGroup>`

## EnableIMProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを im: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは im: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは im: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableIMProtocol>false</EnableIMProtocol>`

## EnableLocalAddressBookSearch

Windows 版、モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがローカルの連絡先を検索できるかどうかを指定します。Jabber Windows クライアントの場合、ユーザーはこれらのローカル連絡先を連絡先リストに追加することもできます。

- true (デフォルト) : ユーザーは連絡先を検索できます。
- false : ユーザーは連絡先を検索できません。

モバイルクライアント (電話専用モード) の場合、Jabber の起動時にすべてのローカル連絡先が Jabber の連絡先リストにインポートされます。ユーザーに対してこの設定を無効にするオプションがあります。

例 : `<EnableLocalAddressBookSearch>false</EnableLocalAddressBookSearch>`



(注) これらのパラメータは、予定表の統合と連絡先の解決のために相互作用します。

- CalendarIntegrationType
- EnableLocalAddressBookSearch
- EnableLotusNotesContactResolution

詳細については、『Cisco Jabber の機能設定』ガイドを参照してください。

## EnableLotusNotesCLibrarySupport

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

IBM Lotus Notes が C ライブラリを使用するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : Notes C ライブラリ
- false : Notes C++ ライブラリ

例 : <EnableLotusNotesCLibrarySupport>true</EnableLotusNotesCLibrarySupport>

## EnableLotusNotesContactResolution

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがローカル IBM Notes の連絡先を検索し、自分の連絡先リストに追加できるようにします。

- true : ユーザーは、ローカル IBM Notes の連絡先を検索し、自分の連絡先リストに追加できます。



(注) EnableLocalAddressBookSearch パラメータも true に設定する必要があります。

- false (デフォルト) : ユーザーは、ローカル IBM Notes の連絡先を検索し、自分の連絡先リストに追加することはできません。

例 : <EnableLotusNotesContactResolution>true</EnableLotusNotesContactResolution>



(注) これらのパラメータは、予定表の統合と連絡先の解決のために相互作用します。

- CalendarIntegrationType
- EnableLocalAddressBookSearch
- EnableLotusNotesContactResolution

詳細については、『Cisco Jabber の機能設定』ガイドを参照してください。

## EnableMediaStatistics

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

通話中のリアルタイムのオーディオとビデオの統計情報の表示を許可します。

- true (デフォルト) : 通話中にリアルタイムのオーディオとビデオの統計情報を表示できます。
- false : 通話中にリアルタイムのオーディオとビデオの統計情報を使用できません。

例 : <EnableMediaStatistics>FALSE</EnableMediaStatistics>

## EnableOtherGroupPickup

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが、自分のコール ピック アップ グループに関連付けられたグループ内の着信コールをピックアップできるかどうか指定します。

- true : 他のグループ コール ピックアップを有効にします。
- false (デフォルト) : グループ コール ピックアップを無効にします。

例 : <EnableOtherGroupPickup>true</EnableOtherGroupPickup>

## EnableP2PDesktopShare

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーは、通話中でない場合に画面を共有できます。

- true (デフォルト) : ユーザーは画面を共有できます。
- false : ユーザーは一对一画面共有を実行できません。

例 : <EnableP2PDesktopShare>>false</EnableP2PDesktopShare>

## EnableProfileProtocol

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを profile: protocol のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。profile: protocol プロトコルは、他のアプリケーションからの連絡先のプロファイル画面を表示します。

- true (デフォルト) : クライアントは、profile: protocol のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは、profile: protocol のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : <EnableProfileProtocol>>false</EnableProfileProtocol>

## EnablePromoteMobile

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。



Cisco Jabber モバイルクライアントについてユーザーに知らせるための通知を Cisco Jabber クライアントに表示するかどうかを指定します。

- `true` : モバイルクライアントをダウンロードするための通知がクライアントに表示されません。
- `false` (デフォルト) : 通知は表示されません。



- (注) Cisco Jabber がフル UC モードで展開されている場合、この通知を有効にした後に 1 回だけユーザーに通知が表示されます。Cisco Jabber が電話専用モードで展開されている場合、通知は、モバイルデバイスがユーザーに対して設定されている場合にのみ表示されます。

`PromotionWelcomeText` キーを設定することで、ユーザー通知のデフォルトのテキストを変更できます。

また、ダウンロードリンクを変更するには、Android 版は `AndroidDownloadURL` パラメータを設定し、iOS 版は `IOSDownloadURL` パラメータを設定します。デフォルトでは、これらのパラメータは、Google Play ストアまたは Apple App Store の Cisco Jabber ダウンロード ページにユーザーを誘導するように設定されています。

例 : `<EnablePromoteMobile>>false</EnablePromoteMobile>`

```
<PromotionWelcomeText>Cisco Jabber for Android アプリをダウンロードします。
</PromotionWelcomeText>
```

```
<AndroidDownloadURL> www.example.com/download </AndroidDownloadURL>
```

```
<IOSDownloadURL> www.example.com/download </IOSDownloadURL>
```

## EnableProvisionProtocol

Android 版、iPhone および iPad 版、Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを URL プロビジョニングのプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- `true` (デフォルト) : クライアントは URL プロビジョニングのプロトコルハンドラとして登録されます。
- `false` : クライアントは URL プロビジョニングのプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableProvisionProtocol>>false</EnableProvisionProtocol>`

## [RecordingTone の有効化 (EnableRecordingTone) ]

すべてのクライアントに適用されます。

ユーザーの録音トーンを有効にします。このパラメータは、他のパラメータ `LocalRecordingToneVolume`、`NearEndRecordingToneVolume`、`RecordingToneInterval` と連携します。



(注) Jabber 録音トーンパラメータを追加する前に、Unified CM サービスパラメータで録音通知トーンを再生できるようにしてください。録音トーンの有効化の詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* の機能とサービス ガイドにある「モニタリングと録音」の章を参照してください。

- `true` (デフォルト) : 録音トーンを有効にします。
- `false` : 録音トーンを無効にします。

例: `<EnableRecordingTone>true</EnableRecordingTone>`

## EnableSaveChatToFile

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーは、ローカルアーカイブを Webex サーバー ([組織管理者 (Org Admin)] > [ローカルアーカイブポリシー (Local Archive Policy)] から) または Cisco Unified Communications Manager for IM and Presence ([メッセージ (Messages)] > [設定 (Settings)] > [クライアントがインスタントメッセージの履歴をログに記録できるようにする (Allow clients to log instant message history)] から) サーバーで有効にする必要があります。

ユーザーがチャットを右クリックしてファイルシステムに HTML として保存できるようにします。

- `true` (デフォルト) : ユーザーはチャットをファイルに保存できます。
- `false` : ユーザーはチャットをファイルに保存できません。

例: `<EnableSaveChatToFile>false</EnableSaveChatToFile>`

## EnableShareProtocol

モバイル版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `share: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。share: URI は、他のアプリケーションからのファイルまたはメッセージを Cisco Jabber を介して連絡先と共有します。

- `true` (デフォルト) : クライアントは `share: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- `false` : クライアントは `share: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : <EnableShareProtocol>>false</EnableShareProtocol>

## EnablesSendLogsViaEmail

モバイルクライアントに適用されます。

[問題レポート (Problem reporting)] ウィンドウの [電子メールで送信 (Send via email)] ボタンを有効にします。

- true (デフォルト) : ユーザーは電子メールでログを送信できます。
- false : ボタンは使用できません。

例 : <EnablesSendLogsViaEmail>True</EnablesSendLogsViaEmail>

## EnableSIPProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを sip: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは sip: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは sip: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : <EnableSIPProtocol>>false</EnableSIPProtocol>

## EnableSIPURIDialling

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Cisco Jabber で URI ダイアルを有効にして、ユーザーが URI でコールを発信できるようにします。

- true (デフォルト) : ユーザーは URI でコールを発信できます。



(注) Webex Collaboration Meeting Rooms のミーティング管理機能をサポートするために、リリース 12.6 でデフォルト値が「true」に変更されました。

- false : ユーザーは URI を使用してコールを発信できません。

例 : <EnableSIPURIDialling>>true</EnableSIPURIDialling>

## EnableStatusProtocol

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを `status: protocol` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。`status: protocol` は、他のアプリケーションからのプレゼンスまたはプレゼンスの編集画面を表示します。

- `true` (デフォルト) : クライアントは、`status: protocol` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- `false` : クライアントは、`status: protocol` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableStatusProtocol>false</EnableStatusProtocol>`

## EnableTelephonyProtocolRateLimit

Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

テレフォニー プロトコル ハンドラがクライアントで使用される回数に制限があるかどうかを指定します。

- `true` (デフォルト) : テレフォニープロトコルハンドラを実行するためのレート制限が有効になっています。
- `false` : テレフォニー プロトコル ハンドラの実行に対するレート制限が無効になっています。

例 : `<EnableTelephonyProtocolRateLimit>false</EnableTelephonyProtocolRateLimit>`

## EnableTelProtocol

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントを `tel: URI` のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- `true` (デフォルト) : クライアントは `tel: URI` のプロトコルハンドラとして登録されます。
- `false` : クライアントは `tel: URI` のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : `<EnableTelProtocol>false</EnableTelProtocol>`

# EnableTelProtocolPopupWindow / CiscoTelProtocolPermissionEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ciscotel:uri 対応番号をクリックした後に、Cisco Jabber を使用して電話をかけるかどうかを確認するポップアップウィンドウを有効にするかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : ダイアログボックスが有効になり、ユーザーはコールの発信を確認するように要求されます。
- false : ダイアログボックスが無効になり、確認を要求されずにコールが発信されます。これは、間違い電話や迷惑電話の原因になる場合があります。



(注) CiscoTelProtocolPermissionEnabled パラメータは EnableTelProtocolPopupWindow パラメータに置き換わります。どちらのパラメータもクライアント内でサポートされますが、どちらかのパラメータが false に設定されるとダイアログボックスが無効になります。

例 : <CiscoTelProtocolPermissionEnabled>>false</CiscoTelProtocolPermissionEnabled>

## EnableVideo

Cisco Jabber ビデオコール中にビデオ機能を有効または無効にします。

- true (デフォルト) : ユーザーはビデオ通話を発信または受信できます。
- false : ユーザーはビデオ通話を発信または受信できません。

例 : <EnableVideo>>false</EnableVideo>

## EnableVoicePush

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber が非アクティブな場合でも、通話があるたびに Cisco Jabber が音声およびビデオのプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。

プッシュ通知が有効になっている場合、自動離席タイマーを設定するオプションは使用できません。

- true (デフォルト) : コールがあるときは常にプッシュ通知が有効です。
- false : プッシュ通知は無効です。

例 : <EnableVoicePush>true</EnableVoicePush>

## EnableXMPPProtocol

Android 版、iPhone および iPad 版、Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントを xmpp: URI のプロトコルハンドラとして登録するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : クライアントは xmpp: URI のプロトコルハンドラとして登録されます。
- false : クライアントは xmpp: URI のプロトコルハンドラとして登録されません。

例 : <EnableXMPPProtocol>>false</EnableXMPPProtocol>

## FCM\_Push\_Notification\_Enabled

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber が非アクティブな場合でも、新しい通話または IM があつたときにクライアントがプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。



---

(注) プッシュ通知を有効にしている場合、自動離席タイマーを設定することはできません。

---

- true (デフォルト) : 新しい通話と IM のプッシュ通知が有効です。
- false : プッシュ通知は無効です。

例 : <FCM\_Push\_Notification\_Enabled>>false</FCM\_Push\_Notification\_Enabled>

## ForceC2XDirectoryResolution

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが click-to-x アクションを実行したときに、連絡先情報を解決するためにクライアントがディレクトリへのクエリを実行するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : ユーザーが click-to-x アクションを実行したときに、クライアントはディレクトリへのクエリを実行します。
- false : click-to-x アクションで、クライアントはディレクトリへのクエリを実行しません。



- (注) このパラメータは、ユーザーが Expressway for Mobile and Remote Access 経由で社内ネットワークに接続している場合は効果がありません。この場合、UDS が連絡先を解決し、クライアントはディレクトリへのクエリを実行できません。

例 : `<ForceC2XDirectoryResolution>>false</ForceC2XDirectoryResolution>`

## ForceDevicePin

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは、Jabber がセキュリティ保護されたデバイスでのみ実行されている必要があることを指定します。ForceDevicePin パラメータを次の値で構成します。

- `false` (デフォルト) : Jabber は、ユーザーがデバイスをセキュリティ保護しているかどうかを確認しません。
- `true` : Jabber は、ユーザーがデバイスをセキュリティ保護しているかどうかを確認します。

例 :

`<ForceDevicePin>>false</ForceDevicePin>`

## ForceFontSmoothing

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントがスムーズテキストにアンチエイリアシングを適用するかどうかを指定します。

- `true` (デフォルト) : クライアントがテキストにアンチエイリアスを適用します。
- `false` : オペレーティングシステムがテキストにアンチエイリアシングを適用します。

例 : `<ForceFontSmoothing>>false</ForceFontSmoothing>`

## ForceUpgradingOnMobile

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

管理者は、このパラメータを使用して最新バージョンへのアップグレードを強制できます。

- `true` : 定期的なチェックで新しいクライアントが見つかった場合、Android の **アプリ内即時アップグレード**を開始してアップグレードを強制します。
- `false` (デフォルト) : 新しいクライアントが利用可能な場合にアップグレードを強制しません。



(注) また、`BlockVersionBelow` を使用して、指定されたリリースより前のクライアントでのユーザーのサインインを停止することもできます。`BlockVersionBelow` は、ユーザーがデバイスで自動アップグレードを無効にできる BYOD 展開で有効です。

例：`<ForceUpgradingOnMobile>true</ForceUpgradingOnMobile>`

## Inactive\_Connection\_Activation\_Timer

すべてのクライアントに適用されます。

接続アクティベーション信号を待機する時間（秒単位）。デフォルトは 120 です。

例：`<Inactive_Connection_Activation_Timer>60</Inactive_Connection_Activation_Timer>`

## InitialPhoneSelection

クライアント初回起動時のユーザの電話タイプを設定します。ユーザーは、クライアントを初めて起動した後に電話の種類を変更できます。クライアントはユーザー設定を保存し、以降の起動でその設定を使用します。

- `deskphone` : 通話にデスクフォンデバイスを使用します。
- `softphone` (デフォルト) : 通話にソフトフォン (CSF) デバイスを使用します。

クライアントは次の順序でデバイスを選択します。

1. ソフトフォン デバイス
2. デスクフォン デバイス

ユーザーにソフトフォンデバイスを提供しない場合、クライアントはデスクフォンデバイスを自動的に選択します。

例：`<InitialPhoneSelection>deskphone</InitialPhoneSelection>`



(注) このパラメータは、仮想環境に展開された Jabber には適用されません。

## InstantMessageLabels

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。



インスタントメッセージを送信する前にユーザーが適用すべき、SECRET や CONFIDENTIAL などのセキュリティラベルのカタログを定義します。ラベルは、送信される各メッセージの前に表示されます。たとえば、「SECRET: メッセージテキスト」のように表示されます。

最大 17 のラベルを指定できます。

Cisco Jabber は、XEP-0258 標準規格を使用してセキュリティラベルを実装します。詳細については、『*XEP-0258: Security Labels in XMPP*』を参照してください。

Cisco Jabber はこれらのラベルに基づいてメッセージ配信を制御しません。このような制御には、コンプライアンスサーバーなど、XEP-0258 ラベルヘッダーをサポートするサードパーティ製品を使用する必要があります。

セキュリティラベルの jabber-config.xml の例：

```
<InstantMessageLabels>
  &lt;item selector="Classified|SECRET">
    <securitylabel xmlns='urn:xmpp:sec-label:0'>
      <displaymarking fgcolor='black' bgcolor='red'>SECRET </displaymarking>
      <label>
        <edhAttrs xmlns="https://www.surevine.com/protocol/xmpp/edh">
          <specification>2.0.2</specification>
          <version>XXXX:1.0.0</version>
          <policyRef></policyRef>
          <originator>Acme</originator>
          <custodian>Acme</custodian>
          <classification>A</classification>
          <nationalities>Acme</nationalities>
          <organisations>Acme</organisations>
        </edhAttrs>
      </label>
    </securitylabel>
  &lt;/item>
  &lt;item...> ... &lt;/item>
</InstantMessageLabels>
```

## InvalidCredentialsLogout

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

InvalidCredentialsLogout が `<value>true</value>` に設定されている場合、クライアントは、非 SSO ログイン情報の期限切れトークンをチェックします。トークンの有効期限が切れている場合、ユーザーはサインアウトされ、再認証を求められます。許可される値は次のとおりです。

- `true` : Jabber は期限切れのトークンをチェックします。
- `false` (デフォルト) : Jabber は期限切れのトークンをチェックしません。

例：`<InvalidCredentialsLogout>true</InvalidCredentialsLogout>`

## LegacyOAuthLogout

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

展開でOAuthを有効にしている場合、Jabberはデフォルトで、ユーザーがサインインするときに期限切れの更新トークンをチェックします。更新トークンの有効期限が切れた場合、ユーザーは再認証する必要があります。ユーザーがサインインしている間に更新トークンの有効期限が切れると、Jabberはセッションが期限切れになったというメッセージでログアウトします。

LegacyOAuthLogout パラメータは、この動作を制御します。使用できる値は次のとおりです。

- true : Jabber が期限切れの更新トークンをチェックすることはありません。
- false (デフォルト) : Jabber は期限切れの更新トークンをチェックします。

例 : <LegacyOAuthLogout>true</LegacyOAuthLogout>

## LocalRecordingToneVolume

すべてのクライアントに適用されます。

クライアントが録音トーンをローカルで再生する音量を指定します。

範囲は0～100%で、デフォルトは10です。

例 : <LocalRecordingToneVolume>25</LocalRecordingToneVolume>

録音トーンを適切に設定する方法の詳細については、EnableRecordingTone を参照してください。

## LogWritingDesktop

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

デスクトップクライアントのディスクにログを書き込むかどうかを指定して、PRT ログのセキュリティレベルを定義します。

- Always (デフォルト) : ログは常に DEBUG レベルでディスクに書き込まれます。クライアントの [ヘルプ (Help)] メニューにオプションは表示されません。
- UserCanEnable : ユーザーがログをディスクに書き込むかどうかを決定できるようにします。この値を設定すると、クライアントの [ヘルプ (Help)] メニューに [詳細ログ (Detailed Logging)] オプションが作成され、ユーザーは詳細ログを有効または無効にできます。有効にすると DEBUG レベルのログが作成され、無効にすると INFO レベルのログが作成されます。
- Never : ログはディスクに書き込まれません。INFO レベルのログが作成されます。PRT が手動で生成されると、メモリ内のログは一時ファイルにフラッシュされ、PRT が生成されるとすぐに削除されます。

例 : <LogWritingDesktop>UserCanEnable</LogWritingDesktop>

INFO レベルのログの場合、ログはメモリ内バッファ (循環) にのみ保持されます。

DEBUG レベルのログの場合、メモリ内バッファがいっぱいになるとディスクにフラッシュされます。Jabber をリセットすると、ディスク上のすべてのログが消去されます。

## LogWritingMobile

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber がモバイルクライアントのディスクにログを書き込むかどうかを指定して、PRT ログのセキュリティレベルを定義します。

- **Always** (デフォルト) : Jabber は常にログを INFO レベルでディスクに書き込みます。クライアントの [ヘルプ (Help) ] メニューにオプションは表示されません。
- **UserCanEnable** : ログをディスクに書き込むかどうかを決定できます。この値を設定すると、クライアントの [ヘルプ (Help) ] メニューに [詳細ログ (Detailed Logging) ] オプションが作成されます。詳細ログは有効または無効にできます。有効にすると DEBUG レベルのログが作成され、無効にすると INFO レベルのログが作成されます。
- **Never** : Jabber はログをディスクに書き込みません。この設定では、INFO レベルのログが作成されます。PRT を手動で生成すると、Jabber はメモリ内のログを一時ファイルにフラッシュし、PRT の生成後にファイルを削除します。

例 : <LogWritingMobile>UserCanEnable</LogWritingMobile>

INFO レベルのログの場合、Jabber はログをメモリ内バッファ (循環) のみに保持します。

DEBUG レベルのロギングの場合、Jabber は、メモリ内バッファがいっぱいになると、そのバッファをディスクにフラッシュします。Jabber をリセットすると、ディスク上のすべてのログが消去されます。

## MaxNumberOfFilesDesktop

デスクトップクライアント用 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber の問題レポートの最大数を指定します。入力できる値の範囲は 1 ~ 20 です。デフォルトでは、デスクトップクライアントは 10 を許可します。

例 :

<MaxNumberOfFilesDesktop>15</MaxNumberOfFilesDesktop>

## MaxNumberOfFilesMobile

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber の問題レポートの最大数を指定します。デフォルトは 5(50MB) です。

例 :

```
<MaxNumberOfFilesMobile>20</MaxNumberOfFilesMobile>
```

## Meetings\_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアント内でのミーティング機能の有効化 **CalendarIntegrationType** パラメータ (Windows) および **MacCalendarIntegrationType** パラメータ (Mac) と連携して機能します。

- true (デフォルト) : 会議機能を有効にし、会議の作成および会議参加のリマインダの受け取りを可能にします。
- false : 会議機能を無効にします。

例 : `<Meetings_Enabled>>false</Meetings_Enabled>`

## MuteAudioByDefault

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

すべての Jabber 通話でマイクを自動的にミュートするかどうかを指定します。

- false (デフォルト) : Jabber 通話でユーザーのマイクはミュートされません。
- true : Jabber 通話でユーザーのマイクがミュートされます。

例 : `<MuteAudioByDefault>>true</MuteAudioByDefault>`

## NearEndRecordingToneVolume

すべてのクライアントに適用されます

Jabber がリモート デバイスおよび近端レコーディング サーバに送信するレコーディング トーンの音量を指定します。

範囲は 0 ~ 100% で、デフォルトは 10 です。

例 : `<NearEndRecordingToneVolume>25</NearEndRecordingToneVolume>`

録音トーンを適切に設定する方法の詳細については、`EnableRecordingTone` を参照してください。

## Prefer\_BiB\_Recorder

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Unified Communications Manager リリース 12.5(1) 以降の展開では、Jabber は、Jabber のビルトインブリッジ (BiB) を使用して、UnifiedCM のオンデマンド録音をサポートできます。デフォ

ルトでは、ユーザーが通話を録音するように設定された外部ブリッジを持つ電話会議に参加すると、Jabberはその外部ブリッジを使用して録音します。

組織によっては、コンプライアンス上の理由から、すべての録音で Jabber BiB を使用することを好む場合があります。Prefer\_BIB\_recorderパラメータを使用して、すべての録音を Jabber BiB で強制的に実行することができます。使用できる値は次のとおりです。

- true : すべてのコールに Jabber BiB レコーダを使用します。
- false (デフォルト) : 可能な場合は、外部ブリッジで録音します。

例 : <Prefer\_BIB\_Recorder>true</Prefer\_BIB\_Recorder>

## PresenceProtocolRateLimit

Synergy デバイス上の Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザーが他のアプリケーションからプレゼンスまたはプレゼンスの編集画面を起動できる回数を指定します。たとえば、PresenceProtocolRateLimit が 3 回で、PresenceProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザーは他のアプリケーションからプレゼンスまたはプレゼンスの編集画面の起動を 15 秒ごとに 3 回開始できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : <PresenceProtocolRateLimit>10</PresenceProtocolRateLimit>

## PresenceProtocolTimeLimit

Synergy デバイス上の Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザーが他のアプリケーションからプレゼンスまたはプレゼンスの編集画面を起動できる時間枠を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例 : <PresenceProtocolTimeLimit>5</PresenceProtocolTimeLimit>

## PreventDeclineOnHuntCall

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ハントグループの着信コールに対して [無視 (Ignore) ] ボタンが表示される場合は、ソフトウェアモードで指定します。

- true (デフォルト) : ハントグループの着信コールに [無視 (Ignore) ] ボタンが表示されません。
- false : ハントグループの着信コールに [無視 (Ignore) ] ボタンが表示されます。

例 : <PreventDeclineOnHuntCall>true</PreventDeclineOnHuntCall>

## PrintIMEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがチャットウィンドウから会話を印刷できるかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : ユーザーは、右クリックして [印刷 (Print) ] を選択することにより、チャット ウィンドウから会話を印刷できます。
- **false** : ユーザーはチャットウィンドウから会話を印刷できません。ウィンドウ内で右クリックしても、[印刷 (Print) ] オプションはメニューにありません。

例 : `<PrintIMEnabled>>false</PrintIMEnabled>`

## ProfileProtocolRateLimit

Synergy デバイス上の Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザーが他のアプリケーションから連絡先のプロファイル画面を起動できる回数を指定します。たとえば、`ProtocolProtocolRateLimit` が 3 回で、`ProfileProtocolTimeLimit` が 15 秒の場合、ユーザーは他のアプリケーションから連絡先のプロファイル画面の起動を 15 秒ごとに 3 回開始できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : `<ProfileProtocolRateLimit>10</ProfileProtocolRateLimit>`

## ProfileProtocolTimeLimit

Synergy デバイス上の Cisco Jabber for Android に適用されます。

ユーザーが他のアプリケーションから連絡先のプロファイル画面を起動するための時間制限を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例 : `<ProfileProtocolTimeLimit>10</ProfileProtocolTimeLimit>`

## ProvisionProtocolRateLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

URL プロビジョニング プロトコルを開始できる回数を指定します。

たとえば、`ProvisionProtocolRateLimit` が 3 回で、`ProvisionProtocolTimeLimit` が 15 秒の場合、ユーザーは 15 秒ごとに 3 回、URL プロビジョニングを使用して Cisco Jabber を起動できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例 : `<ProvisionProtocolRateLimit>10</ProvisionProtocolRateLimit>`

## ProvisionProtocolTimeLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

URL プロビジョニングプロトコルを開始できる時間を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例：<ProvisionProtocolTimeLimit>10</ProvisionProtocolTimeLimit>

## Push\_Notification\_Enabled

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber が非アクティブな場合でも、新しい IM があるたびに Cisco Jabber がプッシュ通知を受信するかどうかを指定します。

プッシュ通知が有効になっている場合、自動離席タイマーを設定するオプションは使用できません。

- true (デフォルト) — 新しい IM があるときは常にプッシュ通知が有効です。
- false : プッシュ通知は無効です。

例：<Push\_Notification\_Enabled>>false</Push\_Notification\_Enabled>

## Recent\_Chats\_Enabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ハブウィンドウで [チャット (Chats)] タブを使用できるかどうかを決定します。このパラメータは、電話のみの展開には適用されません。

- true (デフォルト) : [チャット (Chats)] タブがハブウィンドウに表示されます。
- false : [チャット (Chats)] タブはハブウィンドウに表示されません。

例：<Recent\_Chats\_Enabled>>false</Recent\_Chats\_Enabled>

## RecordingToneInterval

すべてのクライアントに適用されます

連続トーン間のミリ秒を指定します。

範囲は 8000 ~ 32000 で、デフォルトは 11500 です。

例：<RecordingToneInterval>true</RecordingToneInterval>

録音トーンを適切に設定する方法の詳細については、EnableRecordingTone を参照してください。

## RememberChatList

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーのチャットリストが保存され、Jabber を再起動した後に復元されるかどうかを指定します。

- **on** (デフォルト) : パラメータを *on* に設定するか、空のままにすると、ユーザーのチャットリストが保存され、Jabber の再起動後に復元されます。また、[チャットリストを保存 (Save chat list) ] オプションがクライアントで使用できます。
- **off** : ユーザーのチャットリストは保存されず、[チャットリストを保存 (Save chat list) ] オプションはクライアントで使用できません。

例 :

```
<RememberChatList>on</RememberChatList>
```

## RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

複数のデバイスを使用するユーザが、リモート接続先を編集または追加できるかどうかを決定できます。詳細については、『Cisco Jabber オンプレミス展開ガイド』の「拡張および接続機能の設定」の章を参照してください。

- **true** (デフォルト) : 複数のデバイスを使用するユーザは、リモートの接続先を編集または追加できます。
- **false** : 複数のデバイスを使用するユーザは、リモート接続先を編集または追加できません。

例 :

```
<RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices>>false</RemoteDestinationEditingWithMultipleDevices>
```

## RemotePRTServer

Windows 版および Mac 版 Cisco Jabber に適用されます。

管理者が **Unified CM Administration** の [電話 (Phone) ] リストを使用してログを生成したときに、PRT ログをサーバーにアップロードするスクリプトを指定します。

例 : `<RemotePRTServer>http://サーバーパス/UploadZIP.php</RemotePRTServer>`



## SaveLogToLocal

モバイルクライアントに適用されます。

[問題レポート (Problem reporting)] ウィンドウの [ログの送信先 (Send logs to)] ボタンを有効にします。

- true (デフォルト) : ユーザーはログを保存できます。
- false : ボタンは使用できません。

例 : `<SaveLogToLocal>True</SaveLogToLocal>`

## ScreenShareAuditMessages

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber クライアントが、コンプライアンスまたは監査の目的で、すべてのユーザーアクションに関する情報を Presence サーバーに送信できるようにします。



(注) アクティブなコンプライアンスサーバーもある場合、Presence サーバーはコンプライアンスサーバーに情報を送信します。

- true : Jabber は、IM のみの画面共有中のユーザーアクションに関する情報を Presence サーバーに送信します。
- false (デフォルト) : Jabber は、IM のみの画面共有中のユーザーアクションに関する情報を Presence サーバーに送信しません。



(注) この機能を有効にする場合は、すべての Jabber クライアントが少なくともリリース 11.0(1) を実行していることを確認してください。11.0(1) より前のクライアントの場合、IM のみの画面共有中に収集された情報は、インスタントメッセージとしてクライアントに送信されます。

例 : `<ScreenShareAuditMessages>true</ScreenShareAuditMessages>`

## selfcareURL

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Unified Communications Manager サービスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) を指定します。

Cisco Unified Communications Manager でデフォルトのサービスプロファイルが選択されていない場合のセルフケアポータル URL を定義します。

例：<selfcareURL>http://server\_name/selfcareURL</selfcareURL>

## SelfMuteTone

Cisco Jabber for Windows および Cisco Jabber for Mac に適用されます。

ユーザーが自分のマイクをミュートまたはミュート解除したときに Jabber がオーディオトーンを再生するかどうかを決定します。このトーンは、ユーザー自身だけが聞くことができ、通話や会議の他の参加者には聞こえません。

- true (デフォルト) : ユーザーがマイクをミュートまたはミュート解除すると、トーンが再生されます。
- false : ユーザーがマイクをミュートまたはミュート解除しても、トーンは再生されません。

<SelfMuteTone>>false</SelfMuteTone>

## ServiceDiscoveryExcludedServices

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

サービス ディスカバリから特定のサービスを除外するかどうかを指定します。

- WEBEX : この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
  - CAS 検索を実行しません。
  - \_cisco-uds、\_cuplogin、\_collab-edge を検索します。
- CUCM : この値を設定すると、クライアントは次のように動作します。
  - \_cisco\_uds を検索しません。
  - \_cuplogin、\_collab-edge を検索します。

カンマで区切った複数の値を指定して、複数のサービスを除外できます。

例：<ServiceDiscoveryExcludedServices> WEBEX,CUCM </ServiceDiscoveryExcludedServices>

## ServicesDomainSsoEmailPrompt

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ホームクラスタを確定する目的で、電子メールのプロンプトをユーザに表示するかどうかを指定します。

- ON : プロンプトが表示されます。
- OFF (デフォルト) : プロンプトは表示されません。

例 : `<ServicesDomainSsoEmailPrompt>ON</ServicesDomainSsoEmailPrompt>`

## SharePortRangeSize

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

`SharePortRangeStart` パラメータと一緒に使用された場合にポート範囲のサイズを指定します。最小値は 40 です。デフォルトは 16383 です。`SharePortRangeStart` パラメータに加算された場合の値は 65535 が上限です。

ポート範囲の詳細については、『*Cisco Jabber* プランニングガイド』のポートとプロトコルに関するトピックを参照してください。

例 :

```
<Policies>  
<SharePortRangeStart>45130</SharePortRangeStart>  
<SharePortRangeSize>100</SharePortRangeSize>  
</Policies>
```

## SharePortRangeStart

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

このパラメータは、ユーザーがチャットウィンドウで画面を共有するときに使用すべきポート範囲を指定する `SharePortRangeSize` と一緒に使用されます。

これらのパラメータを設定しなかった場合、クライアントは IM 画面共有のデフォルトのポート範囲 49152 ~ 65535 を使用します。デフォルトのポート範囲の詳細については、『*Cisco Jabber* 計画ガイド』のポートとプロトコルに関するトピックを参照してください。

ユーザーが入力した値によって、ポート範囲の先頭が指定されます。最小値は 1024 です。65535 - `SharePortRangeSize` を超える値は指定できません。

例 :

```
<Policies>  
<SharePortRangeStart>45130</SharePortRangeStart>  
<SharePortRangeSize>100</SharePortRangeSize>  
</Policies>
```

この例では、ポート範囲 45130 ~ 45230 が指定されています。

## ShareProtocolRateLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ファイルまたはメッセージの共有を開始できる回数を指定します。たとえば、ShareProtocolRateLimit が 3 で、ShareProtocolTimeLimit が 15 秒の場合、ユーザーは Cisco Jabber でファイル共有またはメッセージ共有を 15 秒ごとに 3 回開始できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 3 です。

例：<ShareProtocolRateLimit>10</ShareProtocolRateLimit>

## ShareProtocolTimeLimit

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ファイルまたはメッセージの共有を開始できる時間を指定します。1 ~ 300 秒の値を設定できます。デフォルト値は 15 秒です。

例：<ShareProtocolTimeLimit>10</ShareProtocolTimeLimit>

## ShowSelfCarePortal

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

[オプション (Options)] ダイアログに [セルフケアポータル (Self Care Portal)] タブを表示するか指定します。

- true (デフォルト) : [オプション (Options)] ダイアログに [セルフケアポータル (Self Care Portal)] タブが表示されます。
- false : [オプション (Options)] ダイアログに [セルフケアポータル (Self Care Portal)] タブが表示されません。

例：<ShowSelfCarePortal>>false</ShowSelfCarePortal>

## SoftPhoneModeWindowBehavior

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがソフトフォン制御モードでコールに回答したときの会話ウィンドウの動作を指定します。

- OnVideo : [会話 (Conversation)] ウィンドウはビデオコールに対してのみ表示されます。
- OnCall (デフォルト) : コールへの応答時に常に [会話 (Conversation)] ウィンドウが表示されます。

- Never : コールへの応答時に [会話 (Conversation) ] ウィンドウは表示されません。

例 : <SoftPhoneModeWindowBehavior>Never</SoftPhoneModeWindowBehavior>

## TelemetryCustomerID

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

分析情報のソースを指定します。使用できるのは、個々の顧客を明示的に特定する文字列、または顧客を特定せずに共通のソースを特定する文字列です。グローバル一意識別子 (GUID) 生成ユーティリティを使用して、36文字の一意識別子を生成するか、反転ドメイン名を使用することを推奨します。GUID の生成に使用できるユーティリティは次のとおりです。

- Mac OS X - uuidgen
- Linux - uuidgen
- Microsoft Windows - [guid]::NewGuid().ToString() または (cmd.exe から) powershell -command "[guid]::NewGuid().ToString()"
- Online - guid.us

GUID を生成する際に使用した方法には関係なく、この識別子はグローバルに一意にする必要があります。

例 : <TelemetryCustomerID>customerIdentifier</TelemetryCustomerID>

## TelemetryEnabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Cisco Jabber クライアントが分析データを収集するかどうかを指定します。ユーザーエクスペリエンスと製品のパフォーマンスを向上させるために、Cisco Jabber クライアントは分析データを収集する場合があります。

- true (デフォルト) : 分析データが収集されます。
- false : 分析データは収集されません。

例 : <TelemetryEnabled>>false</TelemetryEnabled>

## TelemetryEnabledOverCellularData

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

分析データの送信を Wi-Fi 経由に限定するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 分析データが Wi-Fi とモバイルデータ接続経由で送信されます。

- `false` : 分析データの送信を Wi-Fi 接続に限定します。

例 : `<TelemetryEnabledOverCellularData>false</TelemetryEnabledOverCellularData>`

## Telephony\_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで音声およびビデオ機能とユーザ インターフェイスを有効にします。

- `true` (デフォルト) : 音声機能およびビデオ機能とユーザーインターフェイスを有効にします。
- `false` : 音声機能およびビデオ機能とユーザーインターフェイスを無効にします。

クライアントが IM 専用モードに対して有効になっている場合は、このパラメータを `false` に設定してください。IM 限定モード展開でこのパラメータを設定しない場合、ユーザ インターフェイスではテレフォニー機能が無効であると表示される場合があります。

例 : `<Telephony_Enabled>false</Telephony_Enabled>`

## TelephonyProtocolRateLimit

Windows 版、Mac 版、Android 版の Cisco Jabber に適用されます。

テレフォニープロトコルハンドラ (tel: ciscotel、sip) の 1 つからコールを開始できる回数を指定します。たとえば、`TelephonyProtocolRateLimit` が 2 で、`TelephonyProtocolTimeLimit` が 10 秒の場合、ユーザーはいずれかのテレフォニープロトコルハンドラから 10 秒ごとに 2 回通話を開始できます。

1 ~ 100 の値を設定できます。デフォルト値は 2 です。



- 
- (注) 一度に処理できるプロトコルハンドラは 1 つだけです。ユーザーがすでにコールアラートを受信しているときに到着する他のプロトコルハンドラは、破棄されるか、キューに入れられます。
- 

例 : `<TelephonyProtocolRateLimit>10</TelephonyProtocolRateLimit>`

## TelephonyProtocolTimeLimit

Windows 版、Mac 版、Android 版の Cisco Jabber に適用されます。

`TelephonyProtocolRateLimit` がヒットまたはリセットされる前に、ユーザーがテレフォニープロトコルハンドラ (sip、tel、ciscotel) のいずれかから通話を開始できる時間を指定します。い

いずれかのテレフォニープロトコルハンドラから呼び出しを開始するためのデフォルト値は、2 回の試行ごとに 10 秒です。1 ~ 300 秒の値を設定できます。

例：<TelephonyProtocolTimeLimit>10</TelephonyProtocolTimeLimit>

## UserDefinedRemoteDestinations

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザは、クライアントインターフェイスを使用してリモート接続先を追加、編集、および削除できます。拡張機能と接続機能をプロビジョニングしてデフォルトの動作を変更するには、このパラメータを使用します。

デフォルトでは、ユーザのデバイス リストに CTI リモート デバイスだけが含まれる場合、クライアントはユーザがリモート接続先を追加、編集、または削除できないようにします。これは、割り当てられた専用のリモートデバイスをユーザが変更できないようにするためです。ただし、ユーザのデバイス リストにソフトフォン デバイスまたはデスクフォン デバイスが含まれる場合、クライアントはユーザがリモート接続先を追加、編集、および削除できるようにします。

- true : ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できます。
- false (デフォルト) : ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できません。

例：<UserDefinedRemoteDestinations>true</UserDefinedRemoteDestinations>

## UserEnabledDetailedLogging

モバイルクライアントに適用されます。

[問題レポート (Problem reporting)] ウィンドウの [詳細ログ (Detailed logging)] オプションを有効にします。

- true : ユーザーは詳細ログを選択できます。
- false (デフォルト) : オプションは使用できません。

例： <UserEnabledDetailedLogging>True</UserEnabledDetailedLogging>

## Voicemail\_Enabled

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントでボイスメール機能とユーザ インターフェイスを有効にします。

- true (デフォルト) : ボイスメール機能とユーザーインターフェイスを有効にします。
- false : ボイスメール機能とユーザーインターフェイスを無効にします。

例 : <Voicemail\_Enabled>>false</Voicemail\_Enabled>

## VoiceServicesDomain

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

`_collab-edge` と `_cisco-uds` の DNS SRV レコードを設定する DNS ドメインを表す完全修飾ドメイン名を指定します。

例 : 次の DNS SRV レコードがあるとします。

- `_collab-edge._tls.voice.example.com`
- `_cisco-uds._tcp.voice.example.com`

VoiceServicesDomain の値は `voice.example.com` になります。



---

(注) ボイスサービスドメインがサインインドメインと同じ場合は、MRA に対してこのパラメータを設定しないでください。MRA を使用した展開では、ドメインが異なる場合にのみ、このパラメータを構成します。

---

## WhitelistBot

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

WhitelistBot にリストされているボットのみが、グループチャットおよび電話会議の開始、またはインスタントミーティングへの参加を許可されます。WhitelistBot 構成パラメータが定義されていない場合、デフォルトは AdminConfiguredBot で定義された JID になります。

Cisco Jabber では、WhitelistBot で特殊文字 \* などの正規表現を使用できます。たとえば、\* は任意のクライアントからの「ロボットタイプ」のメッセージを開くか、または `{bot}*{@cisco.com}` は「bot」で始まる JID (`bot1@cisco.com`、`bot_thisworks@cisco.com` など) をホワイトリストに登録します。

例 : <WhitelistBot>bot1@example.com;bot2@example.com;bot3@example.com</WhitelistBot>



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。